

# 被服行動と色彩認識の変化

大森 脩平 (22011067so@tama.ac.jp)

## 1. 問題と目的

本研究の目的は、被服の役割や影響と現代の消費行動による変化について検討することである。

それに加えて、被服に対する更なる知識の増加である。例えば、心理的影響があるのか、現代は男女で消費行動どう異なるのか興味があった。岡村好美さんの被服行動における色彩認識の変化と永野光郎さんの被服行動尺度の作成の二つの研究を使用した。流行性、経済性、社会性、快適性、適切性、機能性の6次元どれかに該当し、行動や信念を日頃の自分自身の衣服に関する行動の傾向と被服選択の色彩心理意識を使用したアンケートを作成して行った。仮説は、被服の色彩は個人の気分や感情に影響を与えて、他人からの印象や評価にも影響を与えると考察している。

## 2. 方法

**調査対象者** 多摩大学に在籍する学生31名を対象にアンケートによる調査を行った。

**質問項目** 被服の選択意識23項目、～～

流行性尺度、機能性尺度、適切性尺度、経済性尺度

## 3. 結果

表1は、被服の選択意識23項目について男女別の平均値を示したものである。男女間の比較するためにt検定を行った。その結果、項目4「衝動買いをするのは小物より服が多い」に有意差があり、男性の方が女性よりも服を衝動買いすることが示された。また、項目2「嫌いな色の服を着ると、落ち着かない」と項目20「好きな色の物が側にあると、うきうきする」にも有意差があり、女性の方が男性よりも高い値を示すことがわかった。

表1. 被服の選択意識の男女別平均

カテゴリー	表1 被服行動における性別の影響 男女比較			経済性水準
	全平均	男 平均	女 平均	
1. 小物を乱雑で扱う	3.45	3.57	3.13	0.77
2. 嫌いな色の服を着ると、落ち着かない	3.42	3.09	4.36	2.18 *
3. 服はデザインの内だと思う	4.61	4.57	4.75	0.84
4. 衝動買いをするのは小物より服が多い	3.00	3.35	2.00	2.42 *
5. 小物は色の好き嫌いを選ぶ	3.48	3.43	3.63	0.31
6. 服物は好きな色で選ぶ (補色：簡単に言うとは対色の色、 はっきりした明快な配色(例)青-緑、黄-赤)	2.48	2.61	2.13	0.80
7. 似合う色の物が自分の側にあると、うきうきする	3.87	3.70	4.36	1.25
8. 自分の服は色を選ばず選ぶ	4.13	4.17	4.00	0.35
9. 服は色感で選ぶ	3.29	3.35	3.13	0.35
10. マフラー等の小物は好きな色を選ばず選ぶ	3.55	3.48	3.75	0.46
11. 似合う色の服を着ると、うきうきした気分になる	3.87	3.96	3.63	0.54
12. 衝動買いを良くする	2.97	3.09	2.63	0.77
13. 小物は柄の好き嫌いを選ぶ	3.35	3.30	3.50	0.32
14. 素材が気になる	3.13	3.13	3.13	0.00
15. うきうきした気分になるのは好きな色の服を着た時だ	3.52	3.57	3.36	0.31
16. 服物は好きな色で選ぶ	3.68	3.52	4.13	1.15
17. 自分が好きな色と似合う色は同じである	3.13	3.26	2.75	0.76
18. 色もデザインの内だと思う	4.39	4.30	4.63	1.37
19. パンツやボート等の小物は自分に似合う色で選ぶ	3.45	3.65	2.86	1.21
20. 好きな色の物が側にあると、うきうきする	4.00	3.74	4.75	3.58 **
21. マフラー等の小物は似合う色を選ばず選ぶ	3.61	3.91	3.50	0.69
22. 自分の服は柄を選ばず選ぶ	3.13	3.22	2.86	0.53
23. 似合う色の服を着ると、落ち着く	3.77	3.74	3.66	0.27

表2は、流行性、機能性と快適性、社会性、経済性尺度を使用した男性の相関分析である。

表4 男性の相関分析				
	流行性	機能性、快適性	社会性	経済性
流行性	-	-0.056 ns	-0.065 ns	0.137 ns
機能性、快適性		-	0.132 ns	0.586 **
社会性			-	-0.076 ns
経済性				-

男性の相関分析による結果を見ると、機能性と快適性、経済性に有意差があった。強い数値で関連する可能性があることが分かった。この結果に基づいて、男性は機能性と経済性を重視して被服を選択している行動を行っていることが分かる。

## 4. 考察

t検定の結果、「衝動買いをするのは小物より服が多い」「嫌いな色の服を着ると、落ち着かない」「好きな色の物が側にあると、うきうきする」といった項目で有意差が見られた。このことから、衣服の品質や着用時の快適さが満足するものであるならば被服を衝動買いする男性は多いということ考察できる。女性は、被服に対して男性よりも外見や身だしなみを気にする女性は嫌いな色の服は落ち着かないから色彩を重視して購買や着装をしていることが考察できる。

## 5. 引用文献